

令和7年度

# 学びのてびき

挙手 集中 学び合い のある教室に

学ぶことについて・・・1  
授業の受け方について・・・2  
家庭学習について・・・3  
質の高い学びのために・・・4  
国語・・・・・・・・・・5  
数学・・・・・・・・・・6  
英語・・・・・・・・・・7  
理科・・・・・・・・・・8  
社会・・・・・・・・・・9  
音楽・美術・・・・・・・・10  
保健体育・技術・家庭・・・11

年 組 番	氏名
-------	----

# 【学ぶことについて】

## 1 「学ぶ」ってどんなこと？

### (1) 「学ぶ」の語源は、「まねぶ」

「学ぶ」という言葉には、「見習って行う」「まねて自分のものとする」という意味があります。例えば、私たちが普段話す言葉は、周囲の人々が話す言葉をまねることで、特に意識することなく、いつのまにか身に付いてきたはずです。まねることは、重要な学びの手段です。授業中に行われる「リピート・アフター・ミー」は、代表的な学びの場面です。

### (2) 学ぶことの目の前のゴールは「分かった・できた」

「分かった・できた」という実感は、身に付いた内容を忘れにくくすると同時に、その喜びが、「もっと学びたい」という次の学びへの意欲をかき立てます。進んで考えることで、「分かった・できた」という瞬間に出会う可能性は高まります。「分かった・できた」という瞬間に、新しいものの見方・考え方が生まれ、成長していきます。「分かった・できた」を大切にしましょう。

### (3) 学ぶことで、社会との関わりが深まっていく

ルールの分からないゲームに後から参加するのは、気持ちのいいものではありません。勉強が分からないというのは、それに近い感覚かもしれません。ルールが分かるほどに、おもしろさも増していきます。学校生活にも似たところがあります。学校生活のしくみをよく理解することによって、場面ごとに自分のすべきことが分かってきます。これを世の中に当てはめて考えることもできそうです。世の中のことが分かってくるにつれて、自分自身のよりよい生き方が定まってくるということです。学ぶことは、あなたと社会との関わりを深めていくことにつながります。

### (4) 何のために学ぶのか、喜びのため、そして、未来に向かって

この先の社会は予測が難しいと言われていています。学ぶことは、社会をよりよいものにし、幸福な人生をつくっていくためのものとも言えます。実際の場面で生きて働くような知識や技能、未知の状況にも対応できるような考える力、判断する力、表現する力、学びを人生や社会に生かそうとする力。「よろこび」を実感しながら学ぶことが、すばらしい未来につながっていくことを願います。

## 2 どうすれば学びは充実する？

### (1) 「学び合い」を大切に

「学ぶ」には、「教えてもらって習得する・教わる」という意味もあります。あることを学ぶためには、あることを身に付けている人から教えてもらうのが近道です。学校にはそんな場面がたくさんあります。学ぶ内容は先生から生徒への一方通行だけで伝えられるわけではありません。生徒同士でも教えたり教えられたりすることがあります。さらに、生徒から先生が学ぶこともあります。「学び」は共に学ぶこと、つまり「学び合い」によって、より豊かで深いものになります。

### (2) 「見通しをもつ・やってみる・振り返る」のサイクルで学ぶ

なんとなくやってみてうまくいったことは、次の学びに結び付きません。取り組む前に見通しをもつことと、やってみた後で振り返ってみることは、うまくいった場合もそうでない場合も、次の「学び」に結び付きます。「見通し」と「振り返り」を大切にしましょう。

### (3) 「学び方」を意識する

「学び」にはコツがあります。内容によって効果的な「学び方」は違います。様々な「学び方」を身に付け、学習する内容や目的に合わせて、「学び方」を組み合わせさせていきましょう。

### (4) 「習慣の質」を高める

繰り返すこと、習慣化することで、多くのことを学ぶことができます。さらに、タイミングや回数、方法の工夫により、習慣の質を高めていくことは、より豊かな学びにつながります。

# 【授業の受け方について】

## 1 授業の前に

### (1) 「3分前自学」は将中生の自信

よい雰囲気のカラスは、リーダーが声をかけなくても、自然に無言の状態になります。3分前自学の内容は、教科により違います。教科担任の先生のアドバイスを参考にしましょう。

## 2 授業の中で

### (1) 「課題・めあて」に対する「自分の考え」をもつ

授業のはじめに「学習課題・めあて」が提示されます。どのような学習をするのか見通しをもったり、どのような答えになるのか予想したりします。たとえ間違っていたとしても「自分の考え」をもって参加すると理解が深まります。

### (2) 「学び合い」成功のコツは「よく聞くこと」

授業の中には「学び合い」の場面があります。「学び合い」を充実させるために大切なのは、「聞くこと」のクオリティをアップさせることです。

聞く	初級	① 相手を見る（よい聞き手は、よい話し手を育てます）
	↓	② うなずきながら聞く（話しやすくなります）
	↓	③ 聞きながら大切なことをまとめる（考えるということです）
	↓	④ 自分の考えと比べながら聞く（次の発言にもつながります）
	上級	

### (3) 「学び合い」で「伝え合うよろこび」を

発言は、教科や場面にふさわしい内容と方法で。伝え合うことには、「よろこび」があります。

発言内容	初級	① 思いついたことを話す（「つぶやき」は、教科ごとのルールで）
	↓	② 問いに対して答える（できているようで、結構難しいことです）
	↓	③ 自分の立場（賛成・反対等）を分かりやすく伝える
	↓	④ 根拠を示して、論理的に話す（しかも簡潔に）
	上級	
発言方法	初級	① 場面に合わない声の大きさに（小さい・大きい）
	↓	② 聞き取りやすい声の大きさに（グループ・学級全体で、変わります）
	↓	③ 聞き手を見て（視線のコントロールは高度なテクニック）
	↓	④ 速さ・間・強弱を生かして（聞き手を引き込みます）
	上級	

### (4) 「振り返り」は、「内容+学び方」で

授業や単元の終わりに「振り返り」の場面が設定されています。次の学びにつなげるために、単純な感想でなく、授業で示された観点に基づいた振り返りや「分かった・できた内容」、「プラスだった学び方」を記述し、自分の成長につなげましょう。

## 3 授業の後に

### (1) 片付けは「終わった瞬間」に

授業が終わったら、「休み時間にやりたいこと」を先にしてしまいがちですが、ここはぐっとこらえて、今終わった授業の片付けをします。片付けは次の準備へのステップ、質の高い習慣の確立の道になります。

### (2) 家庭学習で何に取り組むか、計画を立てよう

帰りの会の前までに「宿題は？」「当日のうちに復習したいことは？」「そろそろ忘れたから復習したいことは？」「テスト前に復習したいことは？」「予習しておきたいことは？」…などと、見通しをもちます。この見通した内容をメモできるのが「未来へつなぐノート」です。「未来へつなぐノート」の計画を参考に、今日持ち帰るべき学習用具を準備しましょう。

# 【家庭学習について】

## 1 どんな種類があるのか？

### (1) 授業前日の予習（＋学習用具の準備）

予習は、苦手意識のある教科がおすすです。そして教科ごとに予習のコツがあります。例えば国語で教科書本文の難しい語句の意味や読み方を調べておくと、授業に積極的に取り組みやすくなるということです。教科担任の先生と確認してください。学習用具の準備も欠かせません。

### (2) 締め切りのある課題（宿題）

課題は、見直しをもって早めに取り組みましょう。総合テスト前のワークの課題は、そのままテスト勉強になります。テスト勉強の計画の中に取り入れ、テスト前に終了させましょう。

### (3) 授業当日の復習

その日の授業内容を家庭学習で振り返ると、その内容の理解が深まると同時に忘れにくくなるという効果があります。学習ポイントを家庭学習ノートにまとめる方法もあります。

### (4) 反復する復習（反復練習）

みなさんは、英単語を反復練習して覚えているはずですが、理科や社会の用語も漢字も、書けるかどうかを確認して、書けなかったものを練習する方法がおすすです。

### (5) 忘れたころの復習（テスト勉強）

忘れたころにもう一度学習することで、忘れにくくなることは、科学的に証明されています。授業で学習した内容を総合テストの前にもう一度学習することは、理にかなった学習法です。

### (6) 自分のペースでの学習（いわゆる受験勉強）

特に3年生になると、普段の授業の予習・復習とは別に、1年生からの学習内容を復習することをおすすします。そのときに、実力テストの範囲表を参考にするのも、一つの方法です。自分の弱点を発見して、そこを補う学習をすることも大切です。

## 2 どんなアイテムを使う？

### (1) 教科書

教科書を、声に出して読むことがおすすです。教科書の内容を家庭学習ノートに図式化してまとめるといった方法もあります。

### (2) ワーク類

最近のワークには、解答欄だけ2回分セットになっているものもありますが、同じ問題を何度も解くことがおすすです。家庭学習ノートにワークの答えだけ書く方法もあります。

### (3) 家庭学習ノート

秋田県で広く行われている家庭学習ノートの取組に日本中が注目しています。どんな内容を取り入れるか、自分に合わせて工夫することが、将中で目指す「主体的な学び」につながります。

- ① 日付を書く。
- ② 定規・消しゴムを使う。
- ③ ページレイアウトや教科のバランスを工夫する。
- ④ よい家庭学習ノートを参考にする。（ここでも学び合いは大切！）

### (4) タブレット

eライブラリのドリル、分からないこと、もっと知りたいことの検索、解説の動画を見るなど、様々な使い方ができます。

### (5) それ以外のアイテム

世の中には、学習のための様々なアイテムがあります。自分に合っていると思ったものを使った学習は効果的とも言われます。学校の図書館や新聞にもたくさんの学びのヒントがあります。

# 【質の高い学びのために】

## 1 授業は団体戦

### (1) ルールが徹底しているクラス

5分前入室で全員が次の学習教室に入り、3分前自学では全員が無言で自学に集中している、そんなクラスにあこがれます。一人一人がルールを守ろうとする思いや、学ぼうという意識があると、クラスの雰囲気がいよいよ方向で引き締まっていきます。

### (2) 認め合う温かい雰囲気のクラス

お互いを温かく認める雰囲気のクラスでは、発言内容が間違っても大丈夫という安心感があります。そうすると、自然に発言が多くなります。様々な立場の意見を聞くことで、考えが広がり深まったりします。また、発言することは自分の考えを深めるよいきっかけになります。授業は団体戦とも言われます。よい雰囲気のクラスは、学力向上の土台になります。

## 2 空間と時間を工夫して、よりよい学びの環境づくりを

### (1) 家庭学習のスペースの確保

学習に集中しやすいスペースを確保しましょう。学習机のそばにゲーム機やマンガがあると、気持ちがそちらに向かってしまいます。机の上にスマートフォンを置くと、思わず手が伸びてしまいます。学習に集中しやすいように、集中を乱すものが視界に入らないような工夫をしましょう。中には、居間が集中できるという人もいます。家族の協力も必要ですが、それも一つの方法です。

### (2) 家庭学習時間のルーティン化（固定）

何時から何時までを家庭学習の時間と決めて、そのことを家族に伝えることをおすすめします。体が自然に動いていくのが習慣化された状態ですが、そのためには、家族に協力してもらうことも必要です。食事・入浴等、家族と相談して時刻を決めておくと、学習に集中しやすくなります。

### (3) 「いつ・何を」をデザインする（計画）

学習にはよいタイミングがあります。時間割と家庭学習を結び付けると、何曜日はどんな内容ということが自然に決まってくるはずですが、また「未来へつなぐノート」も参考に、少し先の授業やテストなども考えて、いつ・何を学習するか、書き出してみましょ。それは、学びのデザインにつながります。テスト期間や長期休業以外も計画的な取組はおすすめです。

### (4) 15分間ユニット学習

長い時間集中することが苦手な人もいます。漢字でも計算でも英単語でもかまいません。まず、一つの内容を15分間続けてみましょ。そして次の15分間で、次の内容に取り組んでみてください。長時間の学習にステップアップするひとつのきっかけになります。

### (5) 睡眠との共存

睡眠も学習も必要なものであり、その二つは敵同士ではありません。十分な睡眠時間をとりつつ学習時間を確保するカギは、それ以外の時間の使い方にあります。毎日の生活の中から、あなたの時間を奪ってしまうものを減らしていくことが大切です。ゲーム・スマートフォン・テレビ・マンガ……。欲望に勝つためには、学びの向こうにあるものに目を向ける必要があります。

## 3 学びの向こうにあるものを

ある学者は、「脱皮しない蛇は、滅びる」という言葉を残しています。これは新しい自分に変化・進化していく人間の本性を示す言葉だと思えます。学びは、どこまでも続いていくものです。けれども、人生の道のりの中、中学校生活の3年間という多感な時期に、何を見て、何を感じ、何に涙を流したか。そして、どんなことをどんなふうに学んだかということは、その人の一生を大きく左右するのではないのでしょうか。今は、大事な時期。今の学びを大切にしてください。

# 【国語科】学びのてびき

## 1 国語科ってどんな教科？

Q1：なぜ国語を学ぶのか？（なぜふだん使っている言葉をわざわざ学ぶの？）

A1：私たちの使っている言葉は、実はとてもあいまいなもの。時には、伝える側と受け取る側のちょっとした捉え方の違いが大きな誤解を生んでしまうこともあります。国語科では、文学的な文章や説明的な文章を教材として、正確に早く内容を理解する力を高めたり、これからの時代に必要な話す力・聞く力・書く力を高めたりします。また、様々な語句を使いこなす力も身に付きます。

Q2：古典や文法を勉強する必要は？

A2：言葉は、コミュニケーションの道具であると同時に、文化として大切なものです。昔の人の書いた文章から文化の豊かさを実感し、新しい時代を豊かに生きる土台としての教養が身に付きます。また、文法を学ぶことは、より正確な表現や理解に結び付いていきます。

Q3：国語科の授業で気を付けることは？

A3：3分前学習で、マルチシートに「日付・組・番号・氏名・**学習課題**・メモ欄」を書きます。「話す・聞く・書く・読む」力の土台は「考えること」です。特に、聞きながら考えて自分の考えをもつ習慣を身に付けていきましょう。学び合いの場面でも、聞きながら考えることが大切です。また、授業の終わりには、学習内容だけでなく学び方についての「振り返り」もマルチシートに書きましょう。

Q4：実力テストの得点を上げるには？

A4：国語の実力テストは、とにかく時間との戦いです。初めて触れる文章をわずかな時間で読み解き、問題に答える力を付ける必要があります。この力は、時間を設定した問題演習を何度も繰り返すことで身に付きます。文学的文章と説明的文章は15分程度、古典は8分程度が目安です。ただし、一朝一夕で身に付く力ではありませんので、日々の積み重ねが重要です。

## 2 国語ではこんな取組をしよう！

(1) 授業では・・・

- 問いかけに対して自分の考えをもつ。
- ペアやグループで積極的に発言する。

(2) 家庭学習では・・・

- 漢字の読みを教科書で予習したり、ワークで練習したりする。
- 漢字の書きをステップ別常用漢字で練習する。
  - ☞ 中学校卒業までに、5～10級の学習漢字を確実に書けるようになることが目標です。
- 言葉の意味調べを習慣にする。
- 文法や古典を何度も復習する。
  - ☞ 国語便覧を活用したり、自分で説明できるようにまとめたりするのが効果的です。
  - ☞ 特に、古典は暗唱できるくらいに、何度も音読するのが重要です。

(3) マルチシートでは・・・

- 黒板に書かれたことだけでなく、先生や友達の発言、考えたことなどもメモするようにする。

(4) その他の考えられる取組では・・・

- 様々な種類の本・文章を読む（小説や評論、自伝、新聞もおすすめ）。
- 自分の進み具合と相談して、問題集を購入して、解く（迷ったら先生に相談してください）。
- 漢字検定を受ける（学校では実施していません）。

# 【数学科】学びのてびき

## 1 数学科ってどんな教科？

Q1：なぜ数学を学ぶのか？

A1：数学の内容を仕事や実生活で生かす機会が多いとはいえません。しかし、「数学の勉強を通して身に付けた能力」は、確実に将来の夢に役立てられます。そのような将来の夢に役立てられる能力を身に付けるために数学を学ぶと言えます。その能力はA2に示されています。

Q2：数学を学ぶと身に付く能力をもっと詳しく教えて。

A2：その能力として、①データを読み取る能力②論理的な思考力と表現力③問題解決するときに多様な方法で考える能力などが挙げられます。

①データを読み取る能力

この能力があれば、データに偽りがいないか、信用できるデータは何かが見つけられるようになります。それによって、あらゆる場面でより正しい判断をすることが可能になります。

②論理的な思考力と表現力

簡単に言えば、根拠をもとに相手に分かりやすく説明する能力のことです。例えば「將軍野中はよい学校」と言っても、何がよいか分かりません。そのときにしっかり根拠を示すと、より相手に伝わります。「將軍野中はよい学校だ。なぜなら將軍野中は生徒が笑顔で明るく生活しているから。」の方が分かりやすいですね。将来、会社でプレゼンするときにも役立つ力です。

③問題解決するときに多様な方法で考える能力

数学の答えは一つしかありませんが、答えにたどり着くための解決方法はたくさんあります。自分が生きてゆく上で、何かを達成したいと思ったとき、「方法は一つだけではない」ということを知っていれば、最も適切な方法を見つけ出せます。これはすごいことです。

Q3：授業で気を付けることは？

A3：とにかく一生懸命授業を受けて、多くの問題が解けるようになることで「数学を好きになること」が大切です。数学を好きになれば自ずと成績は上がります。授業ですべてが決まると思ってください。また、授業で習った内容を、その日の内に家庭学習で行うことで定着を図ることができます。

## 2 数学ではこんな取組をしよう！

(1) 授業では・・・

【「なぜ!」「本当に?」をたくさん使え!】

出された問題に対して、疑問に思うクセをつける。

【たくさん失敗しよう!】

ミスすることを恐れず、自分の考えをどんどん発表し、みんなと共有する。

【考えていることを声に出してみよう!】

一回の授業で必ず一回は発言する。アウトプットすることが知識の定着につながります。

(2) 家庭学習では・・・

3分前学習で解けなかった問題を何回も解く。

丸付けは必ず行う。

(3) ノートでは・・・

黒板に書かれた事だけでなく、先生や友達が言ったことなどもメモをとる。

配付されたプリントや資料をしっかりと管理する。

(4) ワークでは・・・

間違えた問題に印をつけ、その問題に何回もチャレンジする。。

ワークは余裕をもって締め切り前に解く。

(5) その他の考えられる取組では・・・

数学の歴史を探る。

数学の動画を見る。

日常生活の中に数学を探る。

数学検定に挑戦してみる(学校では実施していません)。

統計グラフコンクールに応募してみる。

授業で気になった話題について、家で深く探ってみる。

授業で出されたレベルの高い問題に挑戦してみる。

# 【英語科】学びのてびき

## 1 英語科ってどんな教科？

### Q1：なぜ英語を学ぶのか？

A1：今はグローバル化が急速に広まっています。生活の中で世界とつながる機会はますます増えていくでしょう。そんな時代だからこそ、外国語を通じて、コミュニケーションを図ろうとする態度、情報や考えを伝え合う力を身に付けることに意味があるのです。英語は国際的に最も多くの人に使われているコミュニケーションのツール「道具」です。「道具」だから上手に使えるといいですね。

### Q2：英語科で身に付けたい力とは？

A2：「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域です。「聞くこと」「読むこと」は理解する力、「話すこと」「書くこと」は表現する力、「聞くこと」「話すこと」には音声を用い、「読むこと」「書くこと」には文字を用います。5領域をバランスよく身に付けられるようにしましょう。

### Q3：英語科の授業で気を付けることは？

A3：外国語の学習において、“Error is natural.” 間違いは自然です。間違いを恐れず、できるだけたくさん英語を使って活動することが大切です。聞いたり読んだりするときは、少しぐらい分からない語句があっても、大まかな意味を推測したり、相手が何を伝えたいのか想像したりしてみましょう。話したり書いたりするときは、まずはチャレンジしてみましょう。ただし、「書く」活動では文字が残りますから、正確性が求められます。単語や英文を書く力は「書くこと」によって身に付く力なので、練習あるのみです。

## 2 英語ではこんな取組をしよう！

### (1) 授業では・・・

- 発音をよく聞き、まねて発音する。  学習した表現を使って伝えたいことを伝えてみる。
- ペア・グループ学習に積極的に参加する。
- 先生に質問する。  授業で自分の意見を言う。

### (2) 家庭学習では・・・

- 単語や基本文を見ないでも書けるように練習する。
- 基本文をアレンジして文を書く。  ワークを繰り返し練習する。
- 授業で習ったことを何も見ないで、自分の言葉でまとめる。
- 単語を覚えるときに、覚えた単語で例文をつくる。  英語で日記を書く。

### (3) ノートでは・・・

- 黒板に書かれた事だけでなく、先生や友達が言ったことなどもメモをとる。
- 自分が疑問に思ったことをふせんに書いて貼る。

### (4) ワークでは・・・

- 一度で終わらず、何度も繰り返す。
- 間違ったところには×を付けて、後で解いて、できるようになっているか確認する。
- 気付いたこと、注意したいことなどはふせんに書いてはる。

### (5) その他の考えられる取組では・・・

- 英語検定を受ける（学校では実施していません）。
- 映画を字幕で見る（サブスクの映画だと、英語の字幕がでるものもあります）。
- 英語のアプリで勉強する。  教育テレビの英語教育チャンネルを見てみる。

# 【理科】 学びのてびき

## 1 理科ってどんな教科？

### Q1：なぜ理科を学ぶのか？

A1：身のまわりの「なぜ？」を考える教科が理科です。私たちが生きているこの世界は、自然界の規則や法則で成り立っています。理科は、先人たちが解き明かした自然界の規則や法則を学びながら、自分たちの未来の生活をさらに豊かにするための力を養うことができます。

### Q2：理科は暗記すればいいの？

A2：人々が考えを伝え合うのに共通の言語が必要なように、自然の現象や動植物、化学物質の名前など、みんなで自然界の不思議を解明するときに通じて知っておいた方がよいものは覚えておく必要があります。しかし、大切なことは語句を覚えることもそうですが、どうすれば不思議を解決できるのかを考え、その結果、どのようにして不思議が起こっているのかを理解することです。

### Q3：理科の授業で気を付けることは？

A3：何を解き明かそうとしているのか、めあてや学習課題をしっかりとらえます。そして、自分なりの見通しをもつことです。（予想や仮説と呼ばれます）これをもつことで、観察や実験の目的がはっきりして結果に対しての自分の考え（考察）をもつことができます。

授業の振り返りでは、提示された振り返りの視点を用いて自分の言葉でまとめましょう。

## 2 理科ではこんな取組をしよう！

### （1）授業では・・・

- 自分の考え（予想・考察）をもつ。
- 安全に実験・観察を行う（説明をしっかりと聞く）。
- 友達の考えをもとに自分の考えを深める。
- イラストや表を用いて、見て分かるノート作りを心掛ける。
- 自分の考えを積極的に発表する。
- 振り返りを大切にする（新たな疑問を大切にする）。

### （2）家庭学習では・・・ ～テストまで計画的に問題を解く！～

- ワークを繰り返し解く → 丸付け → 直し → 解き直し
- 暗記が必要な内容は表などで見やすく整理する（大きな紙1枚にまとめるとわかりやすい）。  
計算や作図については、ノートに過程も含め書き演習する（×見て、頭の中で解く）。
- 単元テストを活用する。

### （3）その他の考えられる取組では・・・

- 分からないことは恥ずかしいことではない！分からないままにすることが恥ずかしいこと！質問して解決する。
- 日常生活で疑問に思ったことを調べる（授業とのつながりを意識出来たらよりすばらしい！）。

# 【社会科】 学びのてびき

## 1 社会科ってどんな教科？

Q 1 : なぜ社会科を学ぶのか？

A 1 : 次に挙げる2つの姿に近付くことができます。

「社会の大きな変化に対応できる人間」

「社会の中にあふれ出ている情報から自分に必要な情報を獲得して活用できる人間」

Q 2 : 社会って、何を学習するの？ (1年生向け)

A 2 : 歴史、地理、公民の3科目です。1・2年生では歴史と地理を交互に学習します。3年生になると5月頃まで歴史、その後、公民を学習します。

1年	歴史前半・地理(世界)
2年	歴史中半・地理(日本)
3年	歴史後半・公民(政治や経済)

Q 3 : どうすれば社会が得意になるの？

A 3 : ① 社会科全般・公民…ニュースや新聞で報道されていることに関心をもつ。

歴史…暗記するくらい教科書をよく見る。

地理…地図や国名からイメージをふくらませ、連想する。

② 授業ノートに自分の工夫を加える。例えば、吹き出しをつけて自分の考えを書いたり、用語の説明を書いたりするなど。

③ 常に疑問や自分の考え、意見などをもつ。例えば、なぜ…だろう、自分は…だと思うなど。

Q 4 : 社会科はたくさんのお話を暗記しなければならない教科なの？

A 4 : 暗記も必要。なぜなら、ある程度の知識がなければ、自分の考えをもつことも、自分と他者との考えを比較することができないからです。ただし、暗記がすべてではなく、資料や教科書から必要な情報を選択し、ヒントや答えを導き出すことも大切な力です。また、「もっと詳しく知りたい」という興味・関心や好奇心をもって学習に臨む態度も必要です。

## 2 社会科ではこんな取組をしよう！

(1) 授業では・・・

□ 地理と歴史、歴史と公民の切り替えのときに、忘れ物をしない。

□ 教科書の重要だと思うところをアンダーラインや蛍光ペンでチェックしたり、ノートに自分なりにメモを取ったりまとめたりする。

□ 授業で使用する教材が、教科書、資料集、地図帳、白地図、ノート、ワークというように多いので今、何を使用するのかをよく聞き、素早く行動する(特に調べ学習のとき)。

(2) 家庭学習では…

□ 教科書を読む。→重要語にアンダーラインを引く。→教科書の巻末にある用語集や資料集で用語調べをしてノートにまとめる。【インプット】

□ ワークの基本問題(ワーク本誌左のページ)を解く。教科書を見ながらOK。復習でも活用できるように、ワーク本誌に直接書かずに、ワークの学習ノートや家庭学習ノートに解く。

【アウトプット】

□ ワークの総合問題(ワーク本誌右のページ)やまとめ問題(章末問題)を解く。→授業をどれくらい覚えているか確認する。授業後だけでなくテスト前にも繰り返すと効果的。

(3) その他の考えられる取組では・・・

□ 一番大切なことは、(1)と(2)をやりきることです。解いたら、漢字ミス等に気を配ってていねいに答え合わせをして間違ったところをチェックし、後日もう一回解いて覚えたかを確認することで力が高まります。もっと得意になりたいときには、自分のレベルに合った市販の参考書や問題集に取り組んでみましょう。

## 【音楽科】 学びのてびき

### 1 音楽科ってどんな教科？

#### Q1：なぜ音楽科を学ぶのか？

A1：音楽科には、感性を豊かにする、心を柔らかくするという役割があります。同じ音楽を聴いたときの感じ方や、同じ曲を演奏するときの演奏の仕方は人それぞれです。正解がないからこそ、たくさんの感じ方に触れることができます。それぞれ違う考えを認め合うことが、柔らかな心につながります。また授業の中で合唱を扱いますが、みんなで一つのものをつくり上げる喜びや感動を味わうことができるのも、音楽科の魅力です。

#### Q2：音楽科ではどんな学習をするの？

A2：音楽科では、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の学習をします。「歌唱」では、日本や世界の様々な歌、そして合唱曲に取り組みます。「器楽」では、アルトリコーダーを中心に、楽器の様々な音色を楽しみます。「鑑賞」では、楽曲を聴き、その雰囲気を感じ取りながら、音楽の特徴やよさを探っていきます。「創作」では、表したいイメージに合わせて音の使い方や組み合わせ方を工夫し、オリジナルの音楽をつくります。

#### Q3：音楽科の授業で大切なことは？

A3：音楽科では、音楽を聴いたり仲間とともに表現したりすることによって得られる感動を大切にしてほしいです。音楽を聴いて得たイメージを言葉にして伝える、そのイメージをもとに表現のしかたを工夫するなどの活動が、新たな発見や音楽を楽しむことにつながっていきます。

### 2 音楽科ではこんな取組をしよう！

- 自分の思いを音に乗せて表現してみよう！
- 音楽や互いの演奏を聴いた感想を言葉で伝え、様々な感じ方に触れよう！

## 【美術科】 学びのてびき

### 1 美術科ってどんな教科？

#### Q1：なぜ美術を学ぶのか？

A1：工夫して作品を作ることは、精神を落ち着かせ、自分を見つめなおす機会になります。

「自分にはこんなこともできるんだ」「自分ってこんな色使いが好きなんだ」等、制作していると新しい自分に気づくこともたくさんあります。

#### Q2：美術科ではどんな学習をするの？

A2：描いたり作ったり鑑賞したりします。小学校の図工と似ていますが、違うのは皆さんがより大人に近づいているということ。さらに視野を広げ、多くのことを感じ取り…様々な発想や表現につなげていきましょう。

#### Q3：美術の授業で大切なことは？

A3：「感じる心」は、人それぞれです。美術は、互いの感じ方の違いに気付かせてくれます。その違いや様々な表現を否定せずに受け入れることで、授業が楽しくなっていきます。一人一人が違う人間であることは素晴らしいことなのです。

### 2 美術科ではこんな取組をしよう！

- 「無理」「面倒くさい」は禁句。作品は完成させ、提出しよう。
- 鑑賞会では、友達や自分の作品の「いいところ」に目を向けよう。

## 【保健体育科】学びのてびき

### 1 保健体育ってどんな教科？

体育実技の授業では、「できた」時の喜びを体感することができます。また、体の動かし方や練習の仕方が「わかった」時も同様です。個人で運動をしたりグループで練習や競技を行ったりすることによって、達成感を味わうこともできます。

保健の授業では、自分の体のことを知ることや、周りの環境や病気の予防などについて理解することによって、より健康的な生活を送ることができるようになります。

### 2 保健体育科ではこんな取組をしよう！

運動やスポーツに興味をもったり好きになったりするためには、「する、みる、支える」など、スポーツとの関わりを深めることが大切です。休日には運動をしてみる、様々な競技を観戦する、応援するなどして運動やスポーツがもっと身近になるようにしましょう。

Let's Enjoy sports!

## 技術・家庭科【学びのてびき】

### 1 技術・家庭科ってどんな教科？

技術・家庭科は、「技術分野」と「家庭分野」の2つの内容について学びます。

「技術分野」では、私たちの身の回りにある製品に使用されているたくさんの技術や、快適、便利、安全な社会のための技術について学び、持続可能な社会を創造していく力を身に付けます。

「家庭分野」では、小学校の家庭科を土台に、自立した生活に必要な知識や技能を身につけ、地域社会の一員としてよりよい社会をつくりだす力を育てます。

学習したことを、ぜひ生活の中で実践し、活用してみましょう。

### 2 技術・家庭科ではこんな取組をしよう！

(1) 授業では・・・

- 話をきちんと聞く。
- 安全に気を付ける。
- しっかりと片付けをする。

(2) 家庭では・・・

- 家族や自分のために、家の仕事をどんどんやってみる。
- 授業で学習したことを実践してみる。
- 自分の生活が社会や世界とどのようにつながっているか考えてみる。
- ものや道具、工具などを大切に扱う。